



※学校だよりのタイトル『羽ばたく』は、甲府市出身の宮沢和史さんに作詞作曲していただいた、舞鶴小学校の校歌の歌詞の一節です。「ふるさとを愛し、羽ばたく子に」になって欲しいとの願いをこめてタイトルとしました。

地区回覧・HP用

全国学力・学習状況調査の分析結果の概要

今回の学校だよりは、4月に実施した全国学力・学習状況調査の結果概要についての特集号です。本校の分析結果がまとまりましたので、その概要を地域の皆様にお知らせします。

1. 調査の内容について

(1) 実施日 令和4年4月19日(火)

(2) 調査内容

実施学年 第6学年

【教科に関する調査】

※出題範囲は、5年生までの学習内容

・国語、算数、理科に関する問題

出題内容は、次の2点を一体的に問うもの

◇身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

◇知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な問題解決のための構想を立て、実践し評価・改善する力等に関わる内容。

【生活習慣・学習環境等に関する質問紙調査】

◇学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

2. 本校の結果概要について

- 算数・理科は全国平均と比べて上回っている。国語も算数・理科ほどではないが、全国平均をやや上回っており、学習の状況はおおむね良好であると言える。
- 3教科とも「その教科の勉強が好き」「授業の内容が分かる。」と答えた児童は、全国平均を上回っており、意欲的に学習に取り組み、理解していると言える。
- 学力のばらつきは、どの教科も全国と比較して同程度である。3教科とも苦手な児童が存在する。これまでと同様、家庭・地域と連携し、児童を支援していく必要がある。
- 4年生の1学期、学校はコロナで休校した。また、昨年度分散登校も行われた。しかし、その間の学習やそれ以降の指導により学力の面での影響は少ないと考える。

国語の概要

- ◇ 国語が好きで学習の内容も分かる児童が全国平均より多い。全国平均正答数以上の児童が7割程度で、平均正答率は全国平均より高い。
- ◇ 学力のばらつきは、全国と同じ傾向にある。
- ◇ 全問正解の児童は、全国平均より多く、国語が得意な児童は多いが、無解答率が全国より上回る問題が5問あることから、どのように質問に答えたらよいか分からない児童もいる。

算数の概要

- ◇ 算数が好きで得意な児童が多く、全国平均正答数以上の児童が7.5割程度で、平均正答率は、全国平均を上回っている。
- ◇ 学力のばらつきは全国と同じ傾向にある。
- ◇ 正答数の低い割合は、全国と比べて同程度であるが、正答数の高い割合が上回っていることから、学力が身に付いている児童が多い。

理科の概要

- ◇ 理科が好きで得意な児童が多く、全国平均正答以上の児童が8割程度で、平均正答率は、全国平均を上回っている。
- ◇ 学力のばらつきは全国と同じ傾向にある。
- ◇ 正答率が8割以上の児童の割合は、全国よりも上回っている。正答率の低い割合は、全国よりも低く、特に、6問以下の正答率は、全国よりも更に低いことから、全般的に学んだことが定着している児童が多い

3. 生活習慣・学習環境等に関する質問紙調査結果から見られる特徴

児童質問紙の分析

学校生活について

- ◎良好な友達関係の中、協力して活動してきたことが楽しい学校生活につながったと考える。また、昨年度はコロナ禍で分散登校があったが、その影響は少なく充実した学校生活が送れていることが分かった。加えて、人の役に立った、人から感謝された、人から認められたといった自己有用感が高い。課題としては、ICT機器について、有効な利用方法を選んで指導しているが、調べたり発表したりする場面でのさらなる効果的活用を考えていく。

生活面について

- ◎基本的な生活習慣は、身に付いており、自己有用感・規範意識が高い。また、家庭で計画的に学習に取り組んでいて、ゲームやスマートフォンはきまりを守って利用している。

学習に向かう意識について

- ◎国語・算数・理科とも意欲的に取り組み、学習内容を理解していると感じている児童が多く、学力調査の結果とも結びついているものと思われる。
- ◎自分の考えをまとめたり、新しいものを生み出したりする学習に取り組んでいること、発表・表現の工夫、課題解決への取り組み方などを意識して学んでいることが分かる

地域との関わりについて

- ◎コロナ禍で地域の行事が減っている時期が長く、地域との繋がりが薄くなっている面がある。また、行動規制があった中で、活動範囲が狭くなっている様子もある。

4. 今後の学校経営の方向性

○基本的な生活習慣等の育成を図ります

今後もあいさつ運動や無言清掃の推進などを通して、学習の基となる基本的な生活習慣の定着を図ります。家庭との連携をさらに深め、基本的な生活習慣の確立や家庭学習の習慣化を図ります。特に、西中学校区3校連携の中で、長時間のテレビ視聴やゲーム、スマートフォン、タブレット等の長時間使用による悪影響を排し、生活リズムの確立を図る取組を行います。

また、コロナ禍が続き、地域との繋がりが薄くなりつつありますが、学校運営協議会の設置に向けて、可能な限り家庭・地域との連携を図りながら、子ども達の危険予知能力・危機回避能力の育成、ふるさとを愛する心の育成、地域に開かれた学校の創造をめざします。

○「思い遣る心」醸成し、より良い学級集団づくりを進めます

より良い授業を行うためには、民主的で人間関係が安定した学級集団が不可欠です。子どもたちが学級のきまりを守り、「思い遣る心」を持って互いに助け合う学級づくりを進めます。学校行事や学級学年の行事や取組を通して、個人としても学級・学年集団としても成長できるよう、自己決定の場を大切にしながら指導を行います。

○基礎・基本のより一層の定着を図ります

授業中に計算練習等の繰り返し学習や習ったことの復習を行い、基礎・基本のより一層の定着を図ります。「家庭学習の手引き」を各家庭に配布しましたが、家庭学習でも、宿題はもちろん、自主学習ノートや市販のドリル等の自主学習に積極的に取り組めるよう指導し、基礎・基本の確実な定着と自らの疑問を解決できる力の育成をめざします。

○「やまなしスタンダード」を推進し、「甲府スタイル」を基にした授業改善を図ります

「甲府の子どもの教育総合推進校」として、子ども達が、自分の見方・考え方を「広め・深め・つなぐ」学びを進めるために、見通しと振り返り、動き出したくなる課題提示の更なる実践を通して、子どもたちの思考力や判断力、表現力を育てる「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業改善を行います。また、子ども達の個別最適な学び、協働的な学びを支援できるよう、教科や単元の特性に応じた一人一台端末の効果的な活用に向けて授業実践を重ねます。

これらの取組を通して、これからの時代を生き抜く子ども達に求められる「自他を尊重し、協働しながら持続可能な社会の創り手となるための資質・能力」を育成して参ります。